

# 第5期中期目標期間(令和7年度)実績報告

<p style="text-align: center;">令和7年度 年度計画 (高専名:福井工業高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和7年度 年度計画実績報告 (高専名:福井工業高等専門学校)</p>
<p>(1)入学者の確保 ①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に福井県教育委員会に本校の現状説明及び広報を行い、その他福井県内中学校を訪問し、次年度入試に関する説明と理解を求める。</li> <li>・福井県、滋賀県、石川県の中学校訪問を行い、入試について、在校生・卒業生の近況、本校の現状を説明することで、中学校教員の高専に対する理解度の向上に努める。また、学校紹介のガイド等を配布する。</li> <li>・7月に大阪で開催されるKOSEN FES2025に教員を派遣し、本校入試のPRを行う。</li> <li>・複数校受験及び推薦校制度について検討する。</li> <li>・SNSを活用した入試広報活動を行う。</li> </ul>	<p>(1)入学者の確保 ①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月8日に福井県教育委員会に本校の現状説明及び広報を行った。4月15日から25日にかけて福井県内中学校(58校)を訪問し、入試に関する説明と理解を求めた。</li> <li>・6月から7月にかけて福井県(65校)、滋賀県(43校)、石川県(18校)の中学校訪問を行い、入試について、在校生・卒業生の近況、本校の現状を説明することで、中学校教員の高専に対する理解度の向上に努めた。また、学校紹介のガイド等を配布した。</li> <li>・7月13日に大阪で開催されたKOSEN FES2025に教員3名を派遣し、本校入試のPRを行った。</li> <li>・複数校受験及び推薦校制度について検討したが実施には至らなかった。</li> <li>・8月23日に滋賀県立高専(令和10年度開校予定)主催のイベント「高専フェア2025夏inビバシティ彦根」に5名の教員が出展し、本校入試のPRを行った。</li> <li>・9月6日に福井高専を会場とする高専模試を実施した。</li> <li>・9月19日、20日に越前市及び越前市商工会議所主催で開催のイベント「越前市モノづくりフェスタ」に本校教員と学科学生、サイエンスクラブ学生が出展し、学校紹介、新学科PRを実施した。</li> <li>・10月26日に越前市文化振興・施設管理事業団主催で開催のイベント「子どもフェスティバルちちんぷいぷいひらけ〜ゴマ」に教職員11名、学生33名が出展し学校紹介、新学科PRを実施した。</li> <li>・学校PRについて、今年度より、X及びInstagramに公式ページを設け、本格的運用を開始した。</li> <li>・学科改組に関する特設サイトを本校ホームページ上に作成するとともに、学科改組、改組後の各系の動画、オープンキャンパス及び学科改組に係る広報動画を作成し、YouTube配信するとともに各種イベントで公開した。入試説明会など多くの入試広報イベントでQRコードのチラシを配布し、周知に努めた。</li> </ul>
<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月にキャンパスウォーク2025を、9月にキャンパスツアー2025を開催する。</li> <li>・入試説明会を本校、福井県各所、滋賀県、石川県において開催する。</li> <li>・中学校からの高校説明会の依頼に対応し、積極的に参加する。</li> <li>・福井県、滋賀県、石川県の中学校を対象に、カレッジガイド等の学校紹介の資料を配布し、本校のPRに努める。</li> </ul>	<p>①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月10日にキャンパスウォーク2025を開催し、624名(中学生302名、保護者322名)が参加した。9月20日にキャンパスツアー2025を開催し、723名(中学生346名、保護者377名)が参加した。</li> <li>・10月から11月にかけて、入試説明会を本校5回、福井県各所6回、滋賀県2回、石川県1回開催している。10/20までの入試説明会の参加者および10/21以降の参加申込者の合計は、中学生201名、保護者227名であった。</li> <li>・中学校からの高校説明会の依頼に積極的に対応し、12回参加した。</li> <li>・福井県、滋賀県、石川県の中学校を対象に、カレッジガイド等の学校紹介の資料を配布し(カレッジガイドは832冊)、本校のPRに努めた。</li> </ul>
<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業、公開講座を行い、本校の魅力を発信する。</li> <li>・ジュニアドクター育成塾の塾生とその保護者にオープンキャンパスへの参加を促し、本校のPRに努める。</li> </ul>	<p>①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生を対象とした出前授業、公開講座を25回実施し、本校の魅力を発信した。</li> <li>・5月10日に開催されたキャンパスウォーク2025に、ジュニアドクター育成塾4期生及び5期生の塾生のうち中学生3名と、その保護者4名が参加した。</li> <li>・9月20日に開催されたキャンパスツアー2025に、ジュニアドクター育成塾4期生及び5期生の塾生のうち小学生3名、中学生6名と、その保護者11名が参加した。</li> </ul>

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

②-1  
 ・オープンキャンパスの補助学生として女子学生を積極的に登用し、中学生および保護者に優秀な女子学生が地域社会で活躍していることをアピールする。  
 ・本校OGの女性エンジニアと中学生・保護者が交流する機会を設け、女性の高専卒業生がエンジニアとして活躍し、地域社会からも高い評価を受けていることをアピールする。  
 ・高専GCONへの参加を検討する。

②-1  
 ・オープンキャンパスの補助学生として女子学生を67名(キャンパスウォーク25名、キャンパスツアー42名)登用し、中学生および保護者に優秀な女子学生が活躍していることをアピールした。  
 ・本校OGの女性エンジニアと中学生・保護者が交流する機会を設け、女性の高専卒業生がエンジニアとして活躍し、地域社会からも高い評価を受けていることをアピールした。キャンパスウォークでは5名、キャンパスツアーでは8名のOB・OGが参加した。  
 ・高専GCONについて積極的に学内周知を行い、参加を検討したが参加はなかった。

②-2  
 ・ホームページ英語版コンテンツや広報資料を充実させる。  
 ・外国人留学生の新入生が地元自治体の市長を訪問し、地域との繋がりを認識することで、安心して学校生活を始められるようにする。  
 ・短期の英語による高専教育プログラム・インターンシップの受入れ等海外からの学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。  
 ・KOSEN Global Campへの学生の参加を促す。  
 ・昨年度のに引き続き、留学生との懇談会を開催し地域との交流を図る。

②-2  
 ・改組に伴い、英語版広報資料を作成予定である。  
 ・4月17日に外国人留学生の新入生4名が越前市の市長を訪問した。  
 ・4月18日に外国人留学生の新入生4名が鯖江市の市長を訪問した。  
 ・R8年度のPSU(タイ)から短期留学生受け入れおよび、台湾明道高級中学校とのロボット活用アイデアソン開催の計画を進めている。  
 ・KOSEN Global CampをHP、Teams等で共有して積極的に参加を促している。

③-1  
 ・入学試験の出願、オープンキャンパスおよび入試説明会の申し込みは、インターネットを利用したシステムで受け付け、中学生・保護者・中学校にとっての利便性を確保する。  
 ・複数校受験、推薦校制度について検討する。【再掲】  
 ・最寄り地受検について、本年度も実施する。  
 ・入学試験推薦選抜において、本校が実施する講座(ジュニアドクター育成事業)の受講証明等を活用した入学者選抜を継続する。

③-1  
 ・オープンキャンパスおよび入試説明会の申し込みは、インターネットを利用したシステムで受け付けた。入学試験の出願も同じシステムで受け付けることを募集要項に記載した。  
 ・複数校受験、推薦校制度について検討したが実施には至らなかった。  
 ・本年度も最寄り地受検を実施することを募集要項に記載した。  
 ・入学試験推薦選抜において、本校が実施する講座(ジュニアドクター育成事業)の受講証明等を活用した入学者選抜を継続した。

③-2  
 ・障害がある受験生から申請があった場合、受験時の合理的配慮に関して、対応事例を参考にしながら、ルールに基づいて適切に実施する。

③-2  
 ・障害がある受験生から申請があり、受験時の合理的配慮に関して、対応事例を参考にしながら、ルールに基づいて適切に実施した。

(2)教育課程の編成等

①-1-1  
 ・高度情報化人財育成に向けた学科再編に対応した教育課程を編成する。  
 本校の強みを生かした専攻科の充実に向けて、令和8年度から実施される本科の改組の動向を踏まえ、関連情報の収集と分析を行う。また、学生の創造的なモノづくり活動やスタートアップマインドの醸成に向けて、設備・資材・人的支援を含む体制の整備に取り組む。

(2)教育課程の編成等

①-1-1  
 ・高度情報化人財育成に向けた学科再編に対応した教育課程を編成した。来年度の新入生から適用する。  
 ・専攻科改組の準備段階として、他高専における専攻科の学科構成や定員の取り扱いなどについて、専攻科長会議を通じて情報収集を行った。  
 また、学生のものづくり活動を活性化するため、3Dプリンタやレーザーカッターなどのデジタル工作機械の運用体制を整備し、これらの機器に精通した学生をTA(ティーチング・アシスタント)として配置することで、教員不在時でも利用しやすい環境を整えた。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

①-1-2  
 ・社会・産業・地域ニーズに対応するため、専攻科創造デザイン演習、本科プロジェクト演習等における産業界との連携を通じてニーズを把握し、次世代基盤技術教育のカリキュラム化を検討する。  
 ・アントレプレナーシップ教育や社会実装教育の実践に資するため、産業界との連携を進め、北陸地区のスタートアッププラットフォーム(TeSH)、機構本部のプログラムを活用していく。  
 ・令和5年度にスタートアップ環境整備事業で導入した設備や地域連携テクノセンター内に準備した起業家工房(イノベーションラボ)を活用し、学生へのアントレプレナーシップ教育を行う。また、TeSH(Tech Startup HOKURIKU)に参画し、教員の起業マインドを醸成する取り組みを推進する。  
 ・正課とビジネスアイデアコンテストとの連携によるアントレプレナーシップ教育の高度化を図る。

①-1-2  
 ・社会・産業・地域ニーズに対応するため、専攻科創造デザイン演習、本科プロジェクト演習等のPBL教育において産業界との連携を行っている。特に本科4年「プロジェクト演習」では企業技術者をアドバイザーとして招聘を行い、専攻科1年「創造デザイン演習」では企業課題の解決等をテーマとして設定している。  
 ・ビジネスアイデアコンテストや他のコンテストへの応募を目標とした授業設定を行い、アントレプレナーシップ教育と正課との連携と高度化を図っている。  
 ・前期に開講した本科のプロジェクト演習では、企業技術者に審査に加わっていただいた。また、専攻科の創造デザイン演習では、後期にアカデミア会員企業から課題を頂きグループワークを通して解決案を検討した。  
 ・TeSHのSTEP1への申請を目指してメンターとの壁打ちを行った。また、電子情報工学科教員の起業を後押しするために機構本部への予算申請を行い、約450万円の予算を確保した。また、金沢大学と連携したSTARTでは、学生のアントレプレナーシップ教育を行うために予算申請を行い、280万円×3年間の予算を獲得した。  
 ・STARTの予算では、ガリレオコンテストやガリレオの卵コンテストの優秀アイデアにプロトタイプを製作する予算をつけることができた。本予算を積極的に活用してアントレプレナーシップ教育の高度化を図った。

①-2  
 ・本年度も継続して、長岡、豊橋技科大等大学のインターンシップ制度を活用する。  
 ・海外インターンシップについて、安定的かつ持続可能な実施を検討する。  
 ・専攻科生について、近隣地域の大学・高専との教育連携を検討する。

①-2  
 ・2025年度の海外インターンシップ参加者は5名であり、2024年度の1名と比べて大幅な増加となった。また、近隣大学との教育連携については、北陸先端科学技術大学院大学へのインターンシップや、福井大学との共同研究などを実施中である。また、2025年度には福井県立大学との協定を結んだことから、協働教育について検討中である。

②-1  
 ・海外高等教育機関との協定・協力を推進し、海外留学や海外インターンシップ、学生交流の充実を図る。  
 ・海外活動報告会や交流会などを実施したり、KOSEN Global Campやトビタテ!留学JAPANへの参加を促すことでグローバルな意識を醸成する。さらに、海外の大学等との連携を模索する。

②-1  
 ・専攻科生2名が8月に1か月間PSU(タイ)にて海外インターンシップを行った。  
 ・専攻科生3名が8月に1か月間マレーシアおよびベトナムの企業にて海外インターンシップを行った。  
 ・第3学年学生2名が夏休み期間に1か月間トビタテ奨学生としてデンマークおよびアメリカにて研修した。  
 ・22名の学生がシンガポールポリテクニクスでの英語研修に参加した。  
 ・14名の学生が台湾研修に参加して、台北科技大を訪問した。  
 ・4月に春の海外研修報告会を開催した。さらに11月に海外研修報告会を開催した。  
 ・PSU(タイ)を訪問し、次年度の相互の学生派遣について合意を得た。  
 ・タイ高専KOSEN-KMITLを訪問し、校長、総括参事、現地派遣教員と面談しMOU締結について協議した。  
 ・中国の重慶理工大学薬学院の副院長およびスタッフとMOU締結について協議した。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

②-2  
 ・学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上を図る一環としてTOEICや各種外部試験受験の推奨、オンライン英会話・受験対策講座等の学習支援を積極的に行う。  
 ・海外活動報告会や交流会などを実施したり、KOSEN Global Campやトビタテ!留学JAPANへの参加を促すことでグローバルな意識を醸成する【再掲】  
 ・短期の英語による高専教育プログラム・インターンシップの受入れ等海外からの学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】

②-2  
 ・1学年・2学年の英語の授業にオンライン英会話を複数回導入した。また、高専向けのオンライン英会話の年間プランを周知し、16名の申し込みがあった。  
 ・11月に第1学年学生全員がTOEIC Bridgeを受験した。  
 ・9月にTOEIC Bridge受験対策講座を実施した。  
 ・2026年1月および3月のTOEIC公開テストの賛助会員受験割引を実施した。  
 ・第3学年学生2名が夏休み期間に1か月間トビタテ奨学生としてデンマークおよびアメリカにて研修した。【再掲】  
 ・4月に春の海外研修報告会を開催した。さらに11月に海外研修報告会を開催した。【再掲】  
 ・PSU(タイ)を訪問し、次年度の相互の学生派遣について合意を得た。【再掲】  
 ・タイ高専KOSEN-KMITLを訪問し、校長、総括参事、現地派遣教員と面談しMOU締結について協議した。【再掲】  
 ・中国の重慶理工大学薬学院の副院長およびスタッフとMOU締結について協議した。【再掲】  
 ・R8年度のPSU(タイ)から短期留学生受け入れおよび、台湾明道高級中学校とのロボット活用アイデアソン開催の計画を進めている。【再掲】

③-1  
 ・高専体育大会やロボコン、プロコン、デザコンなど各種競技・コンテスト、地域と連携したプロジェクトなどへの積極的な参加を奨励する。  
 ・本年度本校が主管となる全国高専デザインコンペティション2025について、確実な運営を目指す。  
 ・「ガリレオコンテスト」と1年生対象の「ガリレオの卵コンテスト」を開催し、探究・創造型学習の基礎となる場を構築して、課題発見、企画立案、実践、報告に至る一連の能力の育成を図る。  
 ・学生の多様な活動に資する場を提供できるよう、校内の環境整備を図る。  
 ・正課とビジネスアイデアコンテストとの連携によるアントレプレナーシップ教育の高度化を図る。【再掲】

③-1  
 ・高専体育大会やロボコン、プロコン、デザコンなど各種競技・コンテスト、地域と連携したプロジェクトなどへの積極的な参加を奨励している。ロボコン東海北陸地区予選ではデザイン賞を、プロコン全国大会では自由部門で敢闘賞を受賞した。デザコンは本校主管で開催され、構造部門に2作品、AM部門に1作品、プレデザコン部門に2作品が出場し、AM部門へ出場した作品が審査員特別賞を受賞した。  
 ・本年度本校が主管となる全国高専デザインコンペティション2025について、教職員が一丸となって運営に取組み、参加校から高い評価が得られた大会となった。  
 ・「ガリレオコンテスト」と1年生対象の「ガリレオの卵コンテスト」を開催し、探究・創造型学習の基礎となる場を構築して、課題発見、企画立案、実践、報告に至る一連の能力の育成を図っている。ガリレオコンテストには2チーム、ガリレオの卵コンテストには10人の応募があり、12月14日の発表会でその成果が披露された。  
 ・学生の多様な活動に資する場を提供できるよう、校内の環境整備を図っている。校外の学生駐車場についてはアスファルト舗装を行い、自動車通学生の利便性を向上させた。  
 ・正課とビジネスアイデアコンテストとの連携によるアントレプレナーシップ教育の高度化を図る。

③-2  
 ・毎年実施しているクリーン大作戦を継続的に実施する。  
 ・学生のボランティア活動を推奨するため、活動機会の情報を提供する。

③-2  
 ・毎年実施しているクリーン大作戦を10月16日に実施し、学校周辺道路の清掃を行った。高専祭期間中に3月に発生したマンマー地震への募金活動を学生会主導で行い、33,226円をユニセフを通じて寄付した。  
 ・学生のボランティア活動を推奨するため、活動機会の情報を提供した。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

③-3  
・「トビタテ!留学JAPAN」プログラムをはじめとする各種奨学金制度等の積極的な活用を促すとともに、学生の国際会議、海外留学、短期教育プログラム等海外活動等に参加する機会の拡充を図る。  
・海外活動報告会や交流会などを実施したり、KOSEN Global Campやトビタテ!留学JAPANへの参加を促すことでグローバルな意識を醸成する【再掲】  
・短期の英語による高専教育プログラム・インターンシップの受入れ等海外からの学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】

③-3  
・第3学年学生2名が夏休み期間に1か月間トビタテ奨学生としてデンマークおよびアメリカにて研修した。【再掲】  
・22名の学生がシンガポールポリテクニクスでの英語研修に参加した。【再掲】  
・14名の学生が台湾研修に参加して、台北科技大を訪問した。【再掲】  
・4月に春の海外研修報告会を開催した。さらに11月に海外研修報告会を開催した。【再掲】  
・PSU(タイ)を訪問し、次年度の相互の学生派遣について合意を得た。【再掲】  
・タイ高専KOSEN-KMITLを訪問し、校長、総括参事、現地派遣教員と面談しMOU締結について協議した。【再掲】  
・中国の重慶理工大学薬学院の副院長およびスタッフとMOU締結について協議した。【再掲】  
・R8年度のPSU(タイ)から短期留学生受け入れおよび、台湾明道高級中学校とのロボット活用アイデアソン開催の計画を進めている。【再掲】

(3)多様かつ優れた教員の確保

①  
・専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。

(3)多様かつ優れた教員の確保

①  
・専門科目担当教員にかかる教員公募要領の中に「博士の学位を有する者」という項目を掲げている。令和7年度は、専門科目について機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の教員公募を実施したところ、環境都市工学科で2名採用となった。

②-1  
・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、クロスアポイントメント制度の利用について、本校の教員人員枠を確認しながら検討をすすめる。

②-1  
・クロスアポイントメントは人員枠を活用することから、教員人事委員会にて各学科、教室に周知し、昇任、採用と同時に検討を実施している。令和8年度の人事計画の調査において、クロスアポイントメントについても改めて周知を図った。

②-2  
・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、クロスアポイントメント制度の利用について、本校の教員人員枠を確認しながら検討をすすめる。【再掲】

②-2  
・クロスアポイントメントは人員枠を活用することから、教員人事委員会にて各学科、教室に周知し、昇任、採用と同時に検討を実施している。令和8年度の人事計画の調査において、クロスアポイントメントについても改めて周知を図った。【再掲】

③  
・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。  
・女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。  
・ライフステージを考慮した教員選考基準の整備を進める。

③  
・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組について積極的に学内周知を行ったところ、教員1名が同居支援プログラムを利用している。  
・女性研究者支援プログラムの実施について積極的に学内周知を行った。  
・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)について検討し、教職員向け、学生向けに動画配信をする等情報提供を行った。  
・令和7年度は4名の女性教職員と2名の男性教職員が育児休業を取得しており、子育て世代の家庭とのバランスの取りやすい職場環境構築に努めている。

④  
・常勤・非常勤を問わず、外国人の教員の増員を検討する。

④  
・令和7年度中の一般科目の常勤教員公募では、1名(アメリカ)の応募があった。本校としては積極的に採用を検討したが、他日本人候補者が公募要件(専門分野、業績等)により合致していたため、採用に至っていない。非常勤のネイティブ教員の確保も含め、今後も努力したい。  
・機構本部「グローバルエンジニア育成事業」の採択を受け、ネイティブの非常勤講師(アメリカ1名)を雇用した。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

⑤  
・高専・技科大間の教員交流、高専間交流について、積極参加を促し幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供する。同居支援プログラム制度、高専間配置換え希望照会等についても周知を徹底し、受入、派遣ともに対応する。

⑤  
・高専・技科大間の人事交流については、本部からの募集があり次第、学内に積極的な情報周知を実施している。  
・同居支援プログラムを本年度に一般科目教室准教授1名が活用している。

⑥  
・FD講演会・FD研修会を企画開催し、教職員の資質向上に対するモチベーションの涵養を図る。  
・新任教員を対象とする研修プログラムを企画実施する。  
・数理データサイエンスや教育分析等のFDに関する研修会への参加を促すとともに、教務システムや教育改善に係る他高専への視察を行い情報を共有する。

⑥  
・9月10日にFD研修会「授業改善に向けた成績評価の取組み」を実施し、48名の教職員が参加した。  
・12月にジュニアドクター育成塾に関するFD講演会を実施した。  
・3月に新任教員を対象とする研修プログラムを実施した。メンター教員制度により、新任教員(特に民間企業・大学出身者)への1年目・2年目までのサポート体制を整備した。  
・3月24日に生成AIの教育活用に関する研修会を実施した。併せて、教職員を対象としたアンケートにより利用状況や学生利用に対する考え方を把握し、高専機構「教育活動における生成AIの基本的な考え方」に基づく活用方針を共有した。  
・数理データサイエンスや教育分析等のFDに関する研修会への参加、および教務システムや教育改善に係る他高専への視察を促し、情報共有を行った。  
・公開授業週間を前期・後期に実施し、教員間ネットワーク会議(数学・物理・コミュニケーション教育・工学倫理)と連動させて関連授業の相互参観を推進した。

⑦  
・教員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を教員顕彰対象者として推薦する。また、全教職員を対象とした校長表彰を継続して実施する。

⑦  
・機構本部主導の教員顕彰では、厳正な学内審査のもと、職務に精励し、功績が顕著な者を対象者として推薦している。また、校内でも校長による表彰制度を設けており、教育、課外活動指導、研究、地域連携、事務改善等、幅広い職員を表彰し、勤務意欲の高揚、職場環境の活性化を図っている。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

(4)教育の質の向上及び改善

①  
・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが適切に設定されていることを確認し、これらに基づくマネジメントが行われているかを検証する。これにより、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善を行う。  
【機械工学科】  
・4年生「機械工学実験Ⅰ」の「PLC」のテーマにおいて、PLCのサイバーセキュリティに関する講義を新たに実施する。また、COMPASS 5.0ロボット分野で得た知見と教材を利用した実習(4年:前期:知能機械演習)を実施し、課題の抽出と改善を行う。さらに、本実習の前段階となる実習(3年:後期:メカトロニクス実習)に向けて、教材や授業の進め方について改善を行う。  
・令和6年度からの改訂モデルコアカリキュラムへの対応に向けて、系統図等の見直しを実施する。  
・学科改組に伴う、情報系の科目について授業内容等を検討する。  
・卒業研究の実施方法および達成度のチェックの仕方の検討を実施する。  
・実験・実習において、安全教育の充実、見学や協働授業など、地元企業との連携をした授業について検討を行う。

【電気電子工学科】

・他高専との教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定の可能性を探る。モデルコアカリキュラムに基づく教育の質保証の強化を継続的に進める。必要に応じて産業界や行政と連携し、社会ニーズに対応したカリキュラムの検討を進める。特に地域におけるニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化について検討し、国内最大の原発立地県である福井県にある高等教育機関の電気系学科として、原子力人材育成プログラムへの参加を予定している。

【電子情報工学科】

・創造性やデザイン能力を育む取り組みとして、ICT関連企業の技術者と協力し、地域や産業界が直面する課題解決を目指したPBL型カリキュラムの取組みを継続する。また、その成果を様々なコンテストや発表会で発表していく。  
・高専プログラミングコンテストを通し、他高専での実践的なシステム開発や創造性・デザイン能力を活かす方策などの情報収集し、授業改善に結びつける。

(4)教育の質の向上及び改善

①  
・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーが適切に設定されていることを確認し、これらに基づくマネジメントが行われているかを検証した。これにより、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善を行った。また、来年度4月の改組後の基本理念、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを決定した。  
以下、学科、教科、専攻科等ごとに取組を示す。  
【機械工学科】  
・「知能機械演習」(4年前期)では、2024年度の授業実施結果を踏まえ、学生のものづくりにおける計画立案能力をより効果的に支援するため、設計・製造レビューの手法を見直した。その結果、学生がより具体的かつ実現可能な計画を事前に立案できるようになった。  
「メカトロニクス実習」(3年後期)では、より効果的な in situ 教育(現場一体型の学習)を実現するため、座学中にも実習用メカトロニクス教材を参照できるようにカリキュラムを調整した。その結果、後半の実習に対して積極的な取り組みが見られ、最終成果物も完成度が高いものが多く見られた。  
「機械工学実験Ⅰ」(4年後期)では、K-SEC作成のPLCのサイバーセキュリティに関する資料から抜粋し、学生に講義を行った。講義内容は①PLCを標的とした外部からの攻撃について、②製造業におけるセキュリティの必要性についてである。機械工学科4年生全員を対象に講義を終えることができ、セキュリティに関する素養向上が図れた。  
・改訂モデルコアカリキュラムへの対応に向けて、系統図等の確認・見直しを行った。  
・学科改組後の新設科目について、現状の情報系科目との整合性を考慮しながら、シラバスを作成した。  
・卒業研究における学生の達成度の確認やその方法を検討するにあたり、卒業研究に含まれているMCC項目の整理を行った。その結果、卒業研究には適さないと考えられるMCC項目が確認されており、これらの項目について、プロジェクト演習、工学倫理、特別活動など他の授業でカバーするかたちとなった。MCC項目に対応する学生へのフィードバック項目の整理にあたっては、既存の「卒業研究発表会評価項目」(①～⑥)を各項目に割り当てるとともに、既存の項目では対応が難しいMCC項目を網羅するため、新たに評価項目⑦「卒業研究における取組状況」を追加した。この項目⑦では、以下の4点について評価を行うこととした。  
1. 年間を通して計画的に研究を遂行できたか  
2. 卒業研究に意欲的に取り組んでいたか  
3. 学術論文等の研究に必要な情報を適切に収集できたか  
4. 適切な卒業研究報告書を提出できたか  
評価項目⑦については、卒業研究の指導教員のみが評価を行い、A～Eの5段階評価などで学生にとって分かりやすい形でフィードバックすることを想定している。なお、この個別フィードバックはGPAIには反映させない。点数化すると評価基準の公平性に関するトラブルが生じやすいため、その回避の観点からも非点数化による運用が望ましいと考えている。  
各学科での中間報告については、これまで評価を行っていないことから、最終成績およびフィードバックには含めない方向性としている。  
本年度については昨年度と同様に、卒業研究発表会の評価のフィードバックを実施した。  
・実習工場に掲示板を新設し、ヒヤリハット報告を常時閲覧できるようにして、安全への意識を高めた。また、地元企業から実習で使用するフライス盤の寄贈を受けるなど連携を深めた。

【電気電子工学科】

・他高専との教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定の可能性を探り、今後も継続的に議論することとした。  
・モデルコアカリキュラムに基づく教育の質保証の強化を継続的に進めた。特にシラバスへの記載について見直しを行った。  
・地域におけるニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化については今後も継続的に検討することとした。  
・国内最大の原発立地県である福井県にある高等教育機関の電気系学科として、原子力人材育成プログラムへ参加した。  
・卒業研究発表会の評価フィードバックを実施した。

【電子情報工学科】

・創造性やデザイン能力を育む取り組みとして、ICT関連企業の技術者と協力し、地域や産業界が直面する課題解決を目指したPBL型カリキュラムの取組みを継続して行った。また、その成果をコンテストなど様々なコンテストや発表会で発表した。  
・高専プログラミングコンテストや高専フォーラム等、他高専での実践的なシステム開発や創造性・デザイン能力を活かす方策などの情報収集し、授業改善に結びつけた。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

【物質工学科】

・教育力の質的向上と科研費等外部資金獲得に向けた産官学連携共同研究や地域連携教育プロジェクトを推進する。また、次世代を担う人材育成のため国立高等専門学校間で共有可能な化学・生物分野の教育システムの構築を開始する。  
・令和7年度も継続して思考を重視した問題を各定期試験につき各科目1問は出題する。  
・キャンパスツアーやキャンパスツアーを通じて学科の魅力を積極的にアピールするとともに、科学に関わる人材の裾野を広げんための「青少年のための科学の祭典」等の科学教育の啓蒙活動への出展についても検討を行う。  
・(AIを含む計算科学)×(化学・生物)分野の教育に関する教育実践法の具体的方策として、今年度は、所属教員の情報系資格の取得者を増やす。

【環境都市工学科】

・令和8年度の学科改組に向けて、情報技術を活用するカリキュラムの導入について検討する。  
・3年次以降のBYODを利用した学習環境を活用し、学生のスキルアップを図る。  
・新MCCへの対応として、建設と建築の複合融合学科での適合について、令和6年度入学生の学年進行に合わせて進める。  
・学生の資格取得に向けたフォローアップを継続して実施する。  
・卒業研究において、地域企業や行政が直面する課題の解決を目指したテーマについて継続的に取り組む。

【数学】

・WebClassや、1,2年生でのスタディサプリなどを利用しながら、授業におけるその効果的な活用方法を検討する。  
・ICT活用、グループ学習、Web教材や授業動画利用などの授業実践により、主体的な学びの環境を整え、基礎学力の定着を促す。  
・これまでと同様に、成績不振の学生に対しては学習支援室と連携しながら支援を行う。  
・これまで行ってきた数学検定の受検推奨、数学カレンダーの作成、関数グラフアート制作の活動により、継続的に学生の数学に対する興味関心を高めるように努める。  
・数理モデル的思考を育成する教材の開発およびその活用について検討する。

【物質工学科】

・高等専門学校間で共有可能な化学・生物分野の教育システムの構築に向け、社会的ニーズに即したカリキュラムに対応する先端機器に実際に触れる機会を提供した。しかし、教育システムの構築の開始はしていない。  
・試験の難易度が上昇するという課題が見受けられたものの、思考力を重視する観点から、各定期試験において各科目につき1問はその趣旨に沿った問題を出題した。  
・アンケート結果に基づき、キャンパスウォーク、キャンパスツアーを通じて学科の魅力を積極的に発信できたことが確認された。「青少年のための科学の祭典」への出展についても検討を行ったが、化学を専門とする技術職員の人員が限られていることから、負担増を考慮し今回は出展を見送った。一方で、令和7年9月20日(土)に開催された「越前ものづくりフェスタ2025」には山脇研究室が出展し、科学教育の啓発活動を実施した。  
・所属教員における情報系資格の取得者数は依然として増加していない状況にある。

【環境都市工学科】

・令和8年度の学科改組に向けて、情報技術を活用するカリキュラムの導入について検討した。  
・3年次以降のBYODを利用した学習環境を実験実習や授業中の演習課題などで活用し、学生のスキルアップを図った。  
・新MCCへの対応として、令和6年度入学生のカリキュラムから建設と建築の複合融合学科による適合を進めた。  
・学生の資格取得に向けたフォローアップとして、技術士1次試験の受験推奨を継続するとともに、1級土木施工管理技士および1級建築施工管理技士の1次試験合格者についても、受験料の半額補助の対象とした。  
・卒業研究の一部において、地域企業や行政が直面する課題の解決を目指したテーマ設定に取り組んだ。

【数学】

・低学年の基礎学力向上のために、試験前や試験前や長期休業中にスタディサプリを活用した課題を配信した。  
・昨年度に引き続き成績不振の学生に対する補習を継続的に実施した。今年度は2025年5月14日(水)、6月11日(水)、7月2日(水)、7月9日(水)、7月16日(水)、10月15日(水)、10月22日(水)、11月12日(水)、12月17日(水)、1月21日(水)、1月28日(水)の計11回実施し、補習参加人数はのべ213名であった。補習実施の際には、学習支援室とも連携し、教員だけではなく、本科4、5年生および専攻科学生から募集したTA(ティーチングアシスタント)を活用した。それ以外にも、後期開始時および後期中間試験終了後に、スタディサプリを活用したオンラインでの補習を実施した。  
・授業において適時グラフ描画アプリを用いて確認や探究を実施した。  
・授業動画を利用することにより、主体的な学習を促す授業を実践した。  
・夏休みに「関数グラフアート」の課題を課し、2025年10月の高専祭で展示した。  
・昨年度に引き続き「第22回関数グラフアート全国コンテスト」と「第156回関数グラフアートカンファレンス」を実施した。関数グラフアートカンファレンスについては、2025年8月23日(土)に東京理科大神楽坂キャンパスで実施され、参加校は11校、発表者数は22組で、その内、本校学生は3名であった。  
・機械工学科2年から4年、電子情報工学科4年、1年F3およびF5クラスの共同制作で、2026年数学カレンダーを作成した。  
・数学検定を2025年6月22日(土)と2026年3月7日(土)に本校で実施した。受験者はのべ4名であり、準2級に1名、2級1次に1名が合格した。  
・数理モデル的思考を育成する教材を開発するために、専攻科生や本科生の音声データを収集した。また、数理・データサイエンス・AIのカリキュラムについて、4週分の授業内容を検討し、たたき台を作成した。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

【物理】  
・1年物理基礎 課題や小テストを複数回実施し、知識の定着・理解の向上を図る。また、おもに成績不振者を対象とした補習を継続する。さらに、「物理学が拓く世界」として各教員の専門性に応じた話題を授業中に紹介する。これにより、物理を学習することの意義を理解させる。  
・2年物理 独自のプリントやレポート課題、および小テストなどを活用する。放射線に関する授業の効果を検討し改善を試みる。  
・3年生応用物理I 授業全体を通して、新たな知識を身につけさせるとともに、低学年時の物理の復習を行う。また、知識の定着と理解度の確認のため、CBTを活用する。  
・4年生応用物理II 一部の学生実験について、装置の更新や内容の変更について検討し、必要に応じて導入する。あわせて実験テキストの改訂を行う。また、取り組みの姿勢に対する評価方法について検討し改善を試みる。

【地学】  
地理分野との関連性も含めて、総合的な理解を促すような授業を行う。

【化学】  
化学では、授業時間中に、問題集や $+\alpha$ の問題をさせ、その日の授業内容の理解を促進するとともに、躓きやすい点や重要な点について、予習課題も課す。また、教科書の章の終了ごとに課題の提出を課し、特に試験の結果が芳しくない場合は、補習の実施や長期の休み課題を課すことで、学力レベルを維持する努力をする。

【生物】  
生物では、より興味も持たせるよう最新の生物学についての話題や研究を講義に取り入れ、低学年から研究や論文に興味を持つような工夫をする。また、より興味を持つよう映像を使用した講義も実施する。さらに、内容の区切りごとに小テストを実施することで内容の理解を促す

【体育】  
・保健体育 I～III(1～3学年)の体育実技授業において、今年度もスポーツ科学演習を取り入れる。演習では、バランス能力、歩行能力等に関する運動パフォーマンス測定を行い、学年ごとに各種能力や基礎運動技能に関する知識に応じた課題を与え、学生自身が主体的に課題に取り組むように促す。  
・4年生の生涯スポーツ実習の授業の中で、生活習慣病や健康施策等のショートレクチャーを行い、生涯にわたる健康を獲得するための行動につながるような理解を深めるとともに、自己の健康・体力課題の抽出とその対策を考察するレポートを通じて、課題解決のための主体的な学びを促す。

【物理】  
・1年物理基礎 低学年学習支援を20回実施した。頻回参加の学生は合格しており、一定の成果があったと考えられる。一部のクラスではWebClassの活用を検討した。  
・2年物理 低学年学習支援を20回実施した。頻回参加の学生は合格しており、一定の成果があったと考えられる。一部のクラスではWebClassの活用を検討した。原子物理・放射線教育に関する授業を実施した。  
・3年生応用物理I 1、2年生物理の復習を、夏季休業中に限らず授業内でも随時行いながら実施している。知識の定着と理解度の確認のためにCBTを活用した。今年度は、1、2年生の学習内容の基本事項をまとめたプリントを作成・配布し、復習に活用した。また、新MCCIに対応するようシラバスの見直しを行い、授業内容との整合を図った。  
・4年生応用物理II 昨年度に引き続き、一部の学生実験においてレポート提出をプレゼンテーション方式とし、運用の改善を図った。

【地学】  
・地理の科目内で地学も同時に講義することで、地理分野との有機的なつながりを示しつつ授業を行うことができている。

【化学】  
・毎週(実験等で必要ない日は除く)授業の内容の問題と、 $+\alpha$ の問題をプリントもしくはwebclassで用意し、課題として学生に課した。  
・課題プリントには、授業に登場した用語や式をまとめたものを載せて配布した。  
・グループワークや周りとは話し合う時間を設け、自分の理解度を測り、周りとの理解度の差を知ることで、学習意欲を向上させている(毎授業)。  
・試験が芳しくない場合は、個別に指導や長期の休み中の課題の提出を実施した(対象者約30名)。

【生物】  
・内容の区切りごとに小テストを実施することで内容の定着を促した(2単元分)。  
・細胞の話で、日本の大学の最新研究について講義に取り入れた(モータータンパク質、ナノテラス、恐竜、睡眠についてなど)。  
・日本及び国際論文の調べ学習も取り入れた。

【体育】  
・1～3年生の授業では、スポーツ科学演習を実施した。測定器具の数を調整し、課題の遂行時間については個人差が小さくなるように工夫した。4年生では、課題確認テストを実施した。そのテスト対策として授業内でミニツツペーパーを書かせる等の取り組みを行った。1～3年生は概ね順調に課題を進めることができた。4年生課題確認のテストに関しては、高得点をとる学生が増加傾向にあり、不合格点を取る学生も減少する傾向にあった。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

【国語】

- ・1年生より定期的に漢字や言葉の意味に関するテストを実施し、国語力の土台となる語彙力の涵養に努める。
- ・キャリア教育的取り組みの一環で、2年生の「手紙の書き方体験授業」、4年生の自己PR文や志望動機文を作成する授業を継続する。
- ・ディベート大会などの学校行事、校友会誌の編集・発行にあたり、学生への指導を含めた支援を行う。
- ・4, 5年生に対しエントリーシートの書き方や面接指導など就職、進学活動に関わる支援を継続する。

【社会】

- ・ディスカッションの機会を多くつくり、自身の考えの言語化、互いの意見の批判的検討、相互議論による新たな考えの創発を、学生自身が経験できるような授業設計を行う。
- レポートなどの文章化課題を重視し、自身の考えを単に言葉にするだけでなく、考えを論理的に整理して表現する能力を養うことを目指す。
- 「工学倫理」に関しては、一般科目と専門科目の接続を意識し、他教員が担当する授業の見学などを通じて相互関連を図り、授業内容の再検討と改良を行う。

【英語】

- ・英語によるコミュニケーション能力を育成するため、基本的な言語知識の習得と実践的な英語運用能力の向上を目標とした授業実践を行う。低学年においては、英語による効果的なコミュニケーションに必要な基礎的な文法、語彙、理工系の英語表現、および会話表現を取り入れた授業を展開する。学習内容の定着を図るために、WebClass やスタディサプリなどのICTツールを積極的に活用する。さらに、より実践的な英語コミュニケーション能力の育成を目的として、オンライン英会話も適宜実施していく。高学年および専攻科においては、基礎的な英語能力に加えて、より専門的な理工系英語の習得にも重点を置いた授業を実施する。また、学生の英語学習を支援する一環として、TOEICをはじめとする各種英語資格試験の学習も授業に積極的に取り入れ、実用的な英語力の向上を図る。

【専攻科】

- ・単位互換制度については周知を図ってきたが、条件が厳しく外部の授業を受講できない等運用面の課題が残されているため、実情に合った運用を検討する。
- 教学マネジメントの実践に関しては、教務システムの運用開始、学習カルテの試行を踏まえ、専攻科での活用方法や運用体制について検討を進める。

【国語】

- ・キャリア教育的取り組みの一環で、2年生の「手紙の書き方体験授業」、4年生の自己PR文、志望動機文を作成する授業を行った。
- ・1年生から3年生については小テストを学期中3回実施し、語彙力の育成に努めた。
- ・校友会誌の編集・発行にあたり、学生への指導を含めた支援を行った。
- ・5年生の「日本文学論」では、著名な古典作品(古事記、万葉集、古今集、源氏物語、平家物語など)の中で福井県が舞台となっている話を取り上げた。他県の人に福井県の観光スポットを紹介することを想定したレポートを作成した。

【社会】

- ・授業では自身の考えの言語化、そして互いの意見の批判的検討のためにディスカッションの機会を多く設けている。また自身の考えを論理的に表現するためにレポート課題を定期的に課し、そのフィードバックをおこなっている。
- オムニバス形式の「工学倫理」は、前期のクラスが一旦終わり、適宜教員間で相談する機会を設け、授業改善に取り組んだ。

【英語】

- ・学生の基礎的な知識の定着と、実践的な英語運用能力の育成を目的として、以下の方針で指導を行った。
- (1)低学年では、基礎文法および理工系英語の学習を中心に据え、身近な話題や初歩的な理工系内容を扱ったコミュニケーション活動やリスニング活動を実施した。さらに、スタディサプリやオンライン英会話などのICT教材を活用し、学修意欲の向上と学習習慣の確立を図った。
- (2)高学年では、TOEIC対策を軸としたリスニング・文法・語法の演習に加え、英語によるプレゼンテーション等の実践的活動を通して、将来の専門的学習や国際的な場面に対応できる英語力の育成を目指した。

【専攻科】

- ・単位互換制度については、本年度も学生に対して周知を行ったが、現時点では、地理的・時間的条件から受講が難しい状態にある。教学マネジメントの実践に関しては、専攻科での活用方法について検討を進めるために、本科における教務システムの運用状況を確認する。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

【創造教育開発センター】  
 ・Webシラバス、WebClassの有効活用および、アクティブラーニング、ICT教育、CBT、BYOD実施などの教育実践に関して、教員への情報提供・教育改善・環境整備を行う。  
 ・新しい学際領域カリキュラム内の数理データサイエンス教育の具体的な実施案を作成する。  
 ・授業評価アンケートのフィードバックも含め、教学アセスメント実施方針に示されたデータの検証方法および教育改善へつなぐ方法を検討する。  
 ・学習支援につながる教育分析等を実施し、学習支援FDを検討する。

【教学マネジメント室】  
 ・教学IR推進室と連携し、教学マネジメントを実施することで、PDCAサイクルを循環させる。

②  
 ・令和6年度自己点検・評価報告書を作成し、本校のホームページ上に掲載する。  
 ・自己点検・評価、高等専門学校機関別認証評価及び国立高専教育国際標準(KIS)への対応を計画的に進める。

③-1  
 ・4年生の学際科目においてPBLを実施する「プロジェクト演習」を継続し推進する。  
 ・STEAM教育の充実を図るため、「ビジネスアイデアコンテスト」「ガリレオコンテスト」「ガリレオの卵コンテスト」等の学内コンテストへの参加を推奨する。  
 ・創造デザイン演習等授業の課題解決型学習のさらなる発展に向けては、環境整備や動機付けの仕組みづくりが重要であり、学習の出口となる成果の展開や活用体制の強化を進める必要がある。また、外部との連携によって得られた教育成果については、活用が十分に行われていない現状を踏まえ、今後は社会的認知の向上に向けた情報発信や広報活動への積極的な活用を推進する。

③-2  
 ・本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」の会員企業に依頼して企業現場における課題を本校のPBL課題として取り上げ、企業技術者と連携しながら学生の教育に取り組む。また、アカデミア会員企業には、学生の国内外でのインターンシップを依頼する。インターンシップ報告会を実施し、取り組み事例はインターンシップ報告書にて取りまとめを行う。

【創造教育開発センター】  
 ・Webシラバス、ルーブリック、WebClass、アクティブラーニング、ICT教育、CBT、BYOD等の教育実践に関して、教員への情報提供・教育改善・環境整備を行った。  
 ・令和8年度認証評価受審に向け、成績評価の組織的チェック体制(担当教員の自己点検→確認者のピアレビュー→センターによるサンプリング監査→教務委員会による審議)を確立・運用した。サンプリング監査結果について2月10日の教務委員会で報告した。授業点検シートの集計アプリも開発し、自動チェックを可能とし、授業点検シートの集計結果について3月24日の教務委員会にて報告した。  
 ・新モデルコアカリキュラム(新MCC)に対応するため、1・2年生科目のWebシラバスと新MCC対応確認票の照合・修正を実施し、実験スキル評価シートの取得を依頼した。学科改組(未来社会デザイン工学科新設)に伴うWebシラバス授業マスタ更新と新3年生科目の新MCC紐づけも完了した。  
 ・授業評価アンケート(Microsoft Forms)を前期・後期の全開講科目で実施した。前期は回答率94.8%、全体平均79.4点、後期は総合ポイント約80%であり、集計結果を教員会議および教務委員会で報告し、教育改善への活用を進めた。  
 ・卒業生・修了生アンケートの実施根拠を教務申合せ事項に新設し、令和8年度実施に向け規定化を図った。3月に本科5年生を対象とした卒業時アンケートおよび専攻科2年生を対象とした修了時アンケートを実施した。  
 ・教員間ネットワーク会議(数学・物理・コミュニケーション教育・工学倫理)を編成し、各座長のもとで実施・議事録を教務係へ提出した。

【教学マネジメント室】  
 ・PDCAサイクルの循環を確認するため、学内で行われているアンケートについて情報の集約を行った。

②  
 ・令和6年度自己点検・評価報告書を作成し、5月末に本校のホームページ上に掲載した。  
 ・自己点検・評価、高等専門学校機関別認証評価及び国立高専教育国際標準(KIS)への対応を計画的に進めた。令和6年度受審したKISにて指摘を受けた事項について、速やかに対応するよう関係部署と連携した。令和8年度受審予定の高等専門学校機関別認証評価について3月に事前相談を受け、指摘を受けた事項について、速やかに対応するよう関係部署と連携した。

③-1  
 ・4年生の学際科目においてPBLを実施する「プロジェクト演習」を推進している。  
 ・STEAM教育の充実を図るため、「ビジネスアイデアコンテスト」「ガリレオコンテスト」「ガリレオの卵コンテスト」等の学内コンテストへの参加を推奨した。  
 ・創造デザイン演習に係る環境整備については、TAの配置により利便性の向上を図った。また、次年度の学生に向けたアピールの素材として、取り組みのインフォグラフィックスを作成し、校内に掲示した。  
 ・一方、外部連携による教育効果については、デザコンとビジネスアイデアコンテストに応募し、デザコンについては、1チームが代表に選ばれ、審査員特別賞を受賞した。また、ビジネスアイデアコンテストについては、メンターとアイデアのブラッシュアップを実施し、年末の最終審査会において、1チームが準グランプリと審査員特別賞を、1チームが企業賞を受賞した。

③-2  
 ・後期における専攻科の創造デザイン演習では、アカデミア会員企業の見学を通してPBLの課題に取り組んだ。昨年度末にアカデミア会員企業にインターンシップ受け入れの様式に記入頂き、校外実習、インターンシップの情報を4年生や専攻科1年生に積極的に開示した。夏季休業中には機械系の学生がアカデミア会員企業での海外インターンシップを行った。インターンシップ受け入れ企業140社のうち、アカデミア会員企業の受け入れは34社にのぼった。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

④  
・連携推進教員に就任し、連携に関する検討を行う。

④  
・教務主事が4月に連携推進教員に就任した。連携に関する検討を行った。

(5) 学生支援・生活支援等

(5) 学生支援・生活支援等

①  
・学内・学外の関係各所と協働して学生支援にあたる。  
・学外カウンセラー2名に加え、相談室員を配置し、カウンセリング体制を拡充する。  
・スクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し、学生を多面的に支援する。SSWは困りごとを抱えている学生の保護者、学生を取り巻く関係機関とのやり取りを担う。  
・学外におけるメンタルヘルス関係の研修会に教職員を積極的に派遣するとともに、学内においては教職員向け講演会および学生対応に関するワークショップを企画するなどして、学生支援に関する情報や方策を共有し、教職員の資質向上に努める。

①  
・学内各所・学外(発達障害・児者支援センターなど)と学生支援の連携を実施した。  
・新たに相談室員に教員1名を増員し、体制を拡充した。  
・SSWによる学生の多面的支援を実施している。児童相談所など学外の機関との連携に協力を依頼した。  
・学外の研修2件に教職員の派遣を実施した。また、相談室主催の校内研修会を2件実施した。

②  
・奨学金制度について、学校全体での情報共有を図るとともに、学生や保護者に向けた適切な情報提供に努め、円滑に運用する。  
・各種奨学金制度等の学生支援に係る情報を、メール配信、ホームページ、掲示板のメディアを活用して、学生に効率的に提供する。

②  
・奨学金制度について、学校全体での情報共有を図るとともに、学生や保護者に向けた適切な情報提供に努め、円滑に運用した。  
・各種奨学金制度等の学生支援に係る情報を、メール配信、ホームページ、掲示板のメディアを活用して、学生に効率的に提供した。

③  
・低学年から高学年まで、学年毎に先輩講座(卒業生による進路決定までの道筋を例示)などのキャリアガイダンスを実施し、学年進行に応じたキャリア形成を行う。特に令和7年度は3年生のガイダンスの拡充を図る予定である。  
・求人やインターンシップ、進学に関する情報はキャリア支援室にて統括する。就職、進学の主な相談先である本科学級担任、専攻科専攻主任間、さらにキャリア支援室の連携を図るため、キャリア支援委員会、各学年会議などを活用する。  
・キャリア教育セミナー(合同企業説明会)、専攻科・大学・大学院合同説明会を開催する。その際、卒業生に登壇を依頼する。  
・本科4年生、専攻科1年生向けにインターンシップ事前講座、就職対策講座を実施する。  
・女子学生向けのキャリア形成講習会を実施する。  
・本校卒業生同窓会(進和会)との連携体勢を維持し、卒業生による先輩講座を実施するとともに、在校生による先輩フォーラムを開催する。  
・高専キャリアサポートシステム「学内進路支援サイト」に全国高専に対する就職、進学の情報、さらに校内ネットワークの「進路情報フォルダ」内に本校向け求人票や帰校届などの情報が提供されていることを全学生に周知して利用を促す。特に「進路情報フォルダ」の内容はキャリア支援室で随時更新を行う。  
・進学希望の学生に対する支援として大学や専攻科の(編)入学試験問題解答の充足を進めるとともに、4年次から参画できる学生同士のコミュニティを形成するなど、進学に対するサポートの充実を図る。

③  
・5月8日(木)に1年生200名を対象にキャリアガイダンスを実施した。  
・6月5日(木)に2年生201名を対象に、株式会社デンソーから講師を招き、キャリアガイダンス・先輩講座を実施した。  
・6月26日(木)に3年生167名(物質工学科以外の学生)を対象に、株式会社リンクアンドモチベーションのご協力のもと8名の企業の方を招き、しごとくを実施した。  
・7月17日(木)に4年生186名、専攻科1年生23名を対象に、メディア総研株式会社から講師を招き、インターンシップ事前ガイダンスを実施した。  
・7月24日(水)に女子学生3名を対象に、株式会社ポーラから講師を招き、女子学生向けキャリア形成とメーク講習会を実施した。  
・8月7日(木)に、学生36名を対象に、進学希望者向けガイダンスを実施した。なお、当日参加できなかった学生のために、ガイダンスの動画を配信した。  
・10月4日(土)にオンラインにて、専攻科・大学・大学院合同説明会を実施した。  
・10月30日(木)に5年生190名、専攻科2年生35名を対象に、福井労働局から講師を招き、労働法講演会を実施した。  
・今後、12月6日(土)にキャリア教育セミナー、12月11日(木)に2年生を対象とする先輩フォーラム、1月22日(木)に4年生・専攻科1年生を対象とする就職対策講座、1月29日(木)に1年生を対象とする産業・職業研究セミナー、2月19日(木)に3年生を対象とする専攻科説明会をそれぞれ実施予定である。  
・求人票取り扱いに関する問題点を解消するため、高専キャリアサポートシステムへの情報の一本化に取り組んでいる。  
・学内ネット上に保管されている大学編入学試験の過去問解答例などを、さらに充実させることで、進学希望学生のサポートをしている。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

1.2 社会連携に関する事項

①  
・企業との共同研究成果について、本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」をはじめ本校ホームページや外部メディアに積極的に情報発信する。本校の地域連携に関する活動、研究シーズ集をまとめた冊子「JOINT」を作成し、教員の研究分野や共同研究・受託研究成果などの情報発信を行う。また、地域連携テクノセンターのホームページを随時見直し、より広く地域社会に発信する。さらに、第3ブロックに属する他高専のテクノセンターと連携し、研究者情報や研究設備等について情報共有を進める。

②  
・産学連携担当のリサーチ・アドミニストレータと連携し、とくに新規で「地域連携アカデミア」会員企業に入会された地元の企業を訪問して共同研究の掘り起こしを実施する。また、11月に本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を開催し、共同研究の成果の一部を学外に発信する。また、北陸技術交流テクノフェア等のイベントにおいて、本校のアクティビティを広く発信する。

③-1  
・報道関係者との関係構築に取り組む。  
・地域コミュニティFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続ける。また、地方誌の紙面等を通じて継続的に情報を提供する。  
・本校が関係するイベントやニュースを、窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関との関係構築に取り組む。  
・SNSを活用した情報発信を進めるとともにホームページを充実し、動画サイトを活用した広報活動を行う

③-2  
・本校主催の産学連携イベント「JOINTフォーラム」を11月に開催し、地域連携の取り組みや地元企業との共同研究成果の一部を積極的に学外発信する。また、本年度は専攻科1年生の特別研究の成果を発表を行い、企業との連携を模索する。地域連携の取り組みについては、ホームページへの掲載や機構本部への報告を通じて社会に発信する。

④  
・本年度もジュニアドクター育成塾の取り組みを継続する。また、公開授業や出前授業を通じて小中学生に理工系のおもしろさを伝える取り組みを継続する。さらに福井県社会基盤メンテナンス教育プロジェクトの取り組みも継続し、社会人を対象としたリカレント講座を実施する。

1.3 国際交流等に関する事項

①-1  
・法人本部と連携し、校長のリーダーシップの下、国際交流支援に積極的に取り組む。

①-2  
・モンゴル高専との連携・支援策を積極的に模索する。

①-3  
・タイ高専との連携・支援について、現在タイ高専に派遣中の本校教員を通じて積極的に検討する。

1.2 社会連携に関する事項

①  
・本年度のアカデミア総会において、会員企業と本校教員とが共同研究を実施する場合、会員企業の年会費から研究助成を行うことをお認め頂いた。本年度の助成件数は4件、助成額は計25万円となった。  
・本校の地域連携に関する活動、研究シーズ集をまとめた冊子「JOINT」は、本年度からデジタル版に移行した。  
・JOINTフォーラムは、11月12日に本校を会場として開催された。また、専攻科1年生によるシーズ発表を行った。アカデミア会員企業の技術者の参加を呼び掛け、積極的なディスカッションを通して地域社会との連携を行った。

②  
・本校のRAと連携し、新規でアカデミア会員企業に入会された企業を訪問した。教員や専攻科1年生がJOINTフォーラムにおいてポスター発表を行い、研究成果の一部を学外発信した。  
また、10月23日、24日に開催された北陸技術交流テクノフェアでは、専攻科2年生が研究シーズの発表を行った。

③-1  
・報道機関と連携し、各種イベントの実施に関する広報活動を積極的に行っている。  
・地域コミュニティFMでの高専独自番組を活用し、学生自らが地域社会へ情報発信する取り組みを続けた。また、地方誌の紙面等を通じて継続的に情報を提供した。  
・本校が関係するイベントやニュースを、窓口を総務課に一本化しながら、記者クラブなど報道機関に積極的に伝達した。  
・SNSを活用した情報発信を進めるとともに、動画サイトを活用した広報活動を行っている。

③-2  
・11月12日にJOINTフォーラムを開催し、教員10件、専攻科1年生23件がポスター発表を行った。アカデミア会員企業の技術者が多く参加し、活発な議論を行うイベントとなった。本イベントの成果はホームページに掲載され、情報発信を行った。

④  
・ジュニアドクター育成塾の取り組みを継続した。本年度でジュニアドクター育成塾予算が終了するが、STARTの予算申請が採択されたため、次年度の第二段階の予算を確保することができた。また高専REIMと連携しながら、社会人を対象としたリカレント教育も継続した。

1.3 国際交流等に関する事項

①-1  
・校長のリーダーシップの下、海外研修、海外インターンシップ、海外の高等教育機関とのMOU締結、海外活動報告会の実施など国際交流支援に積極的に取り組んでいる。

①-2  
・モンゴル高専との連携・支援策を積極的に模索している。

①-3  
・タイ高専KOSEN-KMITLを訪問し、校長、総括参事、現地派遣教員と面談しMOU締結について協議した。【再掲】

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

<p>①-4 ・ベトナム高専との連携・支援策を積極的に検討する。</p>	<p>①-4 ・ベトナム高専との連携・支援策を積極的に模索している。</p>
<p>①-5 ・エジプト高専との連携・支援策を積極的に検討する。</p>	<p>①-5 ・エジプト高専との連携・支援策を模索している。</p>
<p>①-6 ・法人本部の国際化への取組に積極的に参加する。</p>	<p>①-6 ・機構本部の会議や説明会等に積極的に参加している。</p>
<p>①-7 ・国立高専教育国際標準(KIS)の中期改善計画を作成し、改善に取り組む。</p>	<p>①-7 ・国立高専教育国際標準(KIS)の中期改善計画を作成し、改善に取り組んでいる。</p>
<p>② ・法人本部の国際化への取組に積極的に参加する。【再掲】 ・ISATE2025への教員の積極的な参加を働きかける。</p>	<p>② ・機構本部の会議や説明会等積極的に参加している。 ・ISATE2025への教員の積極的な参加の働きかけを行った。</p>
<p>③-1 ・海外高等教育機関との協定・協力を推進し、海外留学や海外インターンシップ、学生交流の充実を図る。【再掲】 ・海外活動報告会や交流会などの実施したり、KOSEN Global Campやトビタテ!留学JAPANへの参加を促すことでグローバルな意識を醸成する。【再掲】</p>	<p>③-1 ・専攻科生2名が8月に1か月間PSU(タイ)にて海外インターンシップを行った。【再掲】 ・専攻科生3名が8月に1か月間マレーシアおよびベトナムの企業にて海外インターンシップを行った。【再掲】 ・第3学年学生2名が夏休み期間に1か月間トビタテ奨学生としてデンマークおよびアメリカにて研修した。【再掲】 ・4月に春の海外研修報告会を開催した。さらに11月に海外研修報告会を開催した。【再掲】 ・14名の学生が台湾研修に参加して、台北科技大を訪問した。【再掲】 ・PSU(タイ)を訪問し、次年度の相互の学生派遣について合意を得た。【再掲】 ・タイ高専KOSEN-KMITLを訪問し、校長、総括参事、現地派遣教員と面談しMOU締結について協議した。【再掲】</p>
<p>③-2 ・短期の英語による高専教育プログラム・インターンシップの受入れ等、海外からの学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】</p>	<p>③-2 ・R8年度のPSU(タイ)から短期留学生受け入れおよび、台湾明道高級中学校とのロボット活用アイデアソン開催の計画を進めている。【再掲】</p>
<p>③-3 ・「トビタテ!留学JAPAN」プログラムをはじめとする各種奨学金制度等の積極的な活用を促すとともに、学生の国際会議、海外留学、短期教育プログラム等海外活動等への支援を拡充し、参加する機会の拡充を図る。 ・短期の英語による高専教育プログラム・インターンシップの受入れ等、海外からの学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】</p>	<p>③-3 ・第3学年学生2名が夏休み期間に1か月間トビタテ奨学生としてデンマークおよびアメリカにて研修した。【再掲】 ・R8年度のPSU(タイ)から短期留学生受け入れおよび、台湾明道高級中学校とのロボット活用アイデアソン開催の計画を進めている。【再掲】 ・令和7年度は4名の女性教職員と2名の男性教職員が育児休業を取得しており、子育て世代の家庭とのバランスの取りやすい職場環境構築に努めている。【再掲】</p>
<p>④ ・英語版ホームページコンテンツや広報資料を充実させる。【再掲】 ・短期の英語による高専教育プログラム・インターンシップの受入れ等、海外からの学生と高専生が協働し、切磋琢磨する機会を提供する。【再掲】</p>	<p>④ ・改組に伴い、英語版広報資料を作成予定である。【再掲】 ・R8年度のPSU(タイ)から短期留学生受け入れおよび、台湾明道高級中学校とのロボット活用アイデアソン開催の計画を進めている。【再掲】</p>

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

<p>⑤ ・学生の海外渡航時には、海外旅行保険OSSMAに必ず加入させる。 ・教員や学生の海外渡航時の安全面への配慮を精査する。 ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行う。</p>	<p>⑤ ・外国人留学生に対して、定期的に在籍管理状況の確認を行った。 ・学生の海外渡航時は、OSSMAに必ず加入させた。</p>
<p>2. 1 一般管理費等の効率化 ・運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費(及びその他の業務経費)について、1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。</p>	<p>2. 1 一般管理費等の効率化 ・「令和7年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。また、11月以降、福井高専の特色を活かした運営を行えるように戦略的かつ計画的な経費配分を行った。</p>
<p>2. 3 契約の適正化 ・業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、「調達等合理化計画」の実施状況を含む入札及び契約の適正な実施については、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請する。また、「調達等合理化計画」の実施状況をホームページにより公表する。 業務運営において、一層のコスト削減、効率化を図る。</p>	<p>2. 3 契約の適正化 ・一般競争契約は、物品2件を実施し、仕様策定等により競争性や透明性の向上を図った。 ・上記のうち物品1件については、政府調達を行った。 ・インターネットによる調達先を3か所増やし、コスト削減に努めた。 ・北側擁壁等改修工事の契約に当たり一般競争入札を実施し、競争性、透明性の確保を図った。</p>
<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 ・教育用システムの更改に向けた仕様策定を実施し、R8年度からの運用に支障が出ないよう自システム整備を行う。</p>	<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 ・イメージ配信システムを新たに導入し、今年度の夏休み期間に教育用システムのロード方式を変更した。これによって、学生用PCの起動速度が向上した。 ・教育用システムの更改について、学生向けPCについては、導入業者が決まった。サーバ類については、仕様策定ののちに入札が完了した。3月稼働を行い、R8年度での利用が開始されている。 ・業務効率化に向け、Garoonの一部機能をSharePointに移行することについて、情報セキュリティー推進委員会で議論し、規則上問題ないことを確認した。情報セキュリティー管理委員会でも承認されたが、教職員向けの注意事項をまとめるべきという意見があったので、周知を行った。 ・R9年度の高専統一ネットワークの更新に向けたパラメータシートを提出した。また、更新作業がR9年11月6日～8日に決まった。 ・小会議室2, 3でのWiFi電波が弱いとの報告を受けているため、アクセスポイントの追加を行った。</p>
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費(及びその他の業務経費)について、1%の業務の効率化を行う。また、福井高専がそれぞれの特色を活かした運営を行うことができるよう戦略的かつ計画的な経費配分を行う。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・「令和7年度の予算配分方針を決定するにあたっての基本的考え方」に基づき、今年度特別に措置しなければならない経費を除き、一般管理費は3%、その他は1%の業務の効率化を行った。また、11月以降、福井高専の特色を活かした運営を行えるように戦略的かつ計画的な経費配分を行った。【再掲】</p>

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加  
 ・研究環境の実態を調査して研究をより推進するための改善策を検討する。  
 ・外部資金獲得を増加させるために申請を支援する取り組み(公募情報の案内、申請書作成の講習会、申請書の査読、面談、共同研究の斡旋)を行う。  
 ・研究力を高めるために機構本部のプログラムを活用する。  
 ・インターネットを利用した研究成果の情報発信を促進する。  
 ・本校の教育研究振興のための外部組織である「地域連携アカデミア」会員企業数の増加に努め、寄附金の獲得につなげる。  
 ・3名の専門分野の異なるRA(リサーチ・アドミニストレータ)との連携を深め、教職員の保有する研究シーズを把握することで企業等との共同研究を推進するとともに、公募型の競争的資金に積極的に応募する。  
 ・県が推進する未来協働プラットフォームふくい推進事業ならびに県内大学(工学部系)県内就職促進事業等に積極的に応募・参加し、外部資金の獲得を図る。  
 ・令和4年度に寄附増進方策として制定した福井工業高等専門学校基金規則で定める寄附に関し、簡便な手続きによる寄附金収入の拡大を検討する。  
 ・ネーミングライツ及び広告事業を展開する。

3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加  
 ・機構本部等からもたらされる外部資金の情報を学内で共有し、資金獲得に向けての努力を継続的に行っている。また、研究力を高めるため、機構本部のプログラムや査読を活用している。  
 ・リサーチアドミニストレータ(産学連携担当)が学内教職員のシーズと展開について調査を実施し、リサーチアドミニストレータ(研究推進担当)が関係する教職員へ個別に連絡を取り、申請に向けた取り組みを行っている。共同研究掘り起こしのため、RA(産学連携担当)がアカデミア会員企業訪問を実施し、得られた技術課題について本校教職員との橋渡しを行っている。  
 ・准教授以下の教員が査読を通じて外部資金に応募する場合、学会で発表を行う場合、論文に投稿を行う場合に、校長裁量経費より補助を行い、研究推進に繋げている。  
 ・地域連携アカデミア会員企業は162社に増加した。年会費に加え、寄附金の獲得につながった。  
 ・3名の専門分野の異なるRA(リサーチ・アドミニストレータ)との連携を深め、アカデミア会員企業等との共同研究を推進する施策に取り組み、計4件の共同研究実施につなげた。また、RAの申請書の査読を通して科研費等の公募型競争的外部資金への積極的な応募が見られた。令和8年度科研費への新規申請者数は、46件であった。同年度の採択数は継続を含めると23件となった。また、科研費以外での令和7年度競争的資金獲得は、5件であった。  
 ・ネーミングライツ及び広告事業について、ネーミングライツパートナー募集要項を作成し公募を実施した。企業から複数件の応募があり、学内審査を進めている。

6. 剰余金の使途  
 ・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の実現、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。

6. 剰余金の使途  
 ・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動の充実、学生の福利厚生の実現、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。

7. 1 施設及び設備に関する計画  
 ①  
 ・「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」(令和3年3月決定・今年度が最終年度)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2021」(令和3年3月決定)に基づき、福井高専における高度化、国際化への対応に必要な施設の改修や老朽施設の改修について、計画的に予算要求を行う。  
 ・建物外壁及び工作物の非構造部材等で落下等の危険がある場合又は危険が予測される場合は、立入禁止等の処置を行い、早期に補修を実施し、学生・教職員の安全・安心を確保する。  
 ・女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを洋式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。

7. 1 施設及び設備に関する計画  
 ①  
 ・高度化、国際化への対応に必要な施設の改修や老朽施設の改修について下記の通りR9年度概算要求資料を作成、予算要求を行う(11月提出)。(要求順位)  
 1.物質工学科新棟改修、 2.南寮改修  
 ・下記の通りR8年度営繕要求資料を作成、予算要求を行う(11月提出)。(要求順位)  
 1.本館空調設備等更新、 2.電話交換機設備更新

②  
 ・教職員に対しては着任時に安全衛生管理についての研修を行う。その他の教職員については同研修の内容を各種資料を用いて行う。  
 ・学生に対して、年度当初に実験実習ガイダンスでの説明を強化する。

②  
 ・新任の教職員に対し、4月上旬の新任教職員オリエンテーション時に中央労働災害防止協会新入者教育トレーナー資格をもつ職員を講師として、安全衛生教育を実施した。  
 ・学生を対象に実験実習ガイダンスの授業時に安全衛生に関する説明を実施した。

③  
 ・現状に則した福利厚生施設や合宿施設のリニューアル計画を立案する。  
 ・学生自らが学校のキャンパス環境の形成に資する取組を行う機会を検討する。

③  
 ・現状に則した福利厚生施設や合宿施設のリニューアル計画を立案している。  
 ・学生自らが学校のキャンパス環境の形成に資する取組を行う機会を検討する。  
 ・福利施設改修がR8年度概算要求事業の候補になっており、実施に向けた校内調整を行っている。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

7.2 人事に関する計画

- (1)方針
- ・課外活動指導員と外部コーチの制度を利用し、指導教員B制度と併用することで、指導教員の負担を軽減させ、円滑な部活動を支援する。
  - ・退職や再雇用となった元教員の日直業務従事制度(希望制)により、現職教員の業務従事回数の軽減と効率化が継続的に実現している。この制度を本年度も実施する。
  - ・働き方改革の有力な方策として、多様な宿日直業務の在り方(例、年齢や各種事情による業務配慮や女性教員の宿日直業務従事等)の慎重な検討と試行計画を立てる。
  - ・東寮宿直業務の外部委託を令和5年度後期より導入したが、今年度も継続する。

7.2 人事に関する計画

- (1)方針
- ・課外活動指導員と外部コーチの制度を利用し、指導教員B制度と併用することで、指導教員の負担を軽減させ、円滑な部活動を支援した。
  - ・女性教員の宿日直体制について検討を行ったが、宿直などについては全体意見として賛同意見は少なかった。一方でR8年度の寮務主事が女性教員であり、半宿直制度で寮生指導にあたることとなった。
  - ・元教職員による日直業務従事制度は、前年度同様に実施し、R7年度では日直33日を委託した。
  - ・東寮宿直業務についても、前年度同様に外部業者委託を実施し、宿直158日の外部委託を行い、元教員による日直業務と合わせ、教員の宿直業務での負担軽減ができた。

②

- ・長期的な視野をもって、戦略的かつ弾力的な教員配置を検討する。
- ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。

②

- ・特例流用の活用により、退職者の生じる学科の早期人員補充を実施し、退職教員の在任中に新任教員が業務を直接引き継ぎできる体制を以前から保持している。
- ・高専・両技科大間の交流制度について、令和7年度は学内希望者がいなかったが、教員の資質向上に有益であると考えており、今後も交流制度の利用を校内で推進したい。

③

- ・標準人員枠に対し、特例流用を活用することにより若手教員を確保し、人材の長期育成を図る。

③

- ・特例流用の活用により、退職者の生じる学科の早期人員補充を実施し、退職教員の在任中に新任教員が業務を直接引き継ぎできる体制を以前から保持している。【再掲】
- ・特例流用を積極的に活用することにより、若手教員が主となる助教の枠を増やし、人材の長期的視野での育成を可能なものとしている。

④-1

- ・専門科目担当教員の公募において、豊富な経験や高度な力量を有し、かつ、多様な人材を確保できるように応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げる。【再掲】

④-1

- ・専門科目担当教員にかかる教員公募要領の中に「博士の学位を有する者」という項目を掲げている。令和7年度は、専門科目について機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の教員公募を実施したところ、環境都市工学科で2名採用となった。【再掲】

④-2

- ・企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、クロスアポイントメント制度の利用について、本校の教員人員枠を確認しながら検討をすすめる。【再掲】

④-2

- ・クロスアポイントメントは人員枠を活用することから、教員人事委員会にて各学科、教室に周知し、昇任、採用と同時に検討を実施している。令和8年度の人事計画の調査において、クロスアポイントメントについても改めて周知を図った。【再掲】

④-3

- ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。【再掲】
- ・女性研究者支援プログラムなどの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。【再掲】
- ・女性教職員からの要望に基づき、計画的に和式トイレを様式に改修するなど、女性教職員の就業環境改善に努める。

④-3

- ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組について積極的に学内周知を行ったところ、教員1名が同居支援プログラムを利用している。【再掲】
- ・女性研究者支援プログラムの実施について積極的に学内周知を行った。【再掲】
- ・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)について検討し、教職員向け、学生向けに動画配信をする等情報提供を行った。【再掲】
- ・女子トイレの洋式化及びトイレブースの個室化工事を計画しているが、予算上の都合上実施時期は未定である。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

<p>④-4 ・常勤・非常勤を問わず、外国人教員の増員を検討する。【再掲】</p>	<p>④-4 ・公募用件に外国人教員を想定した文言を付加している。 ・令和7年度中の一般科目の常勤教員公募では、1名(アメリカ)の応募があった。本校としては積極的に採用を検討したが、他日本人候補者が公募要件(専門分野、業績等)により合致していたため、採用に至っていない。非常勤のネイティブ教員の確保も含め、今後も努力したい。【再掲】 ・機構本部「グローバルエンジニア育成事業」の採択を受け、ネイティブの非常勤講師(アメリカ1名)を雇用した。【再掲】</p>
<p>④-5 ・男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。</p>	<p>④-5 ・ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョン(DE&amp;I)について検討し、教職員向け、学生向けに動画配信をする等情報提供を行った。【再掲】</p>
<p>⑤ ・高専・両技科大間の教員交流制度を活用し、教育研究活動の活性化と連携を深めると共に、教育の改善と質の向上に努める。また、教員及び事務・技術職員を対象とした実地、オンライン等各種の研修会に参加させ、一層の資質向上を図る。</p>	<p>⑤ ・高専・両技科大の教員交流制度について、令和7年度において利用を希望する者はいなかった。 ・令和7年度は、各種研修会に積極的に教職員を参加させ知識修得及び資質向上を図った。 &lt;教育職員&gt; ・令和7年度高等専門学校新任教員研修会に教員3名が参加した(令和7年5月以降オンライン及び集合計式で実施)。 ・令和7年度高等専門学校中堅教員研修に教員2名が参加した(令和7年10月28日～29日)。 &lt;事務職員・技術職員&gt; ・令和7年度国立高等専門学校機構初任職員研修に事務職員3名が参加した(令和7年4月16日～18日)。 ・令和7年度独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(電気系)に技術職員1名が参加した(令和7年8月26日～28日 福島高専主管)。 ・令和7年度東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校技術職員研修に技術職員1名が参加した(令和7年9月9日～11日 奈良高専)。 ・東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(情報)に技術職員1名が参加した(令和7年8月28日～29日 名古屋大学)。 ・令和7年度国立高等専門学校機構施設担当者研修会に技術職員1名が参加した(令和7年9月18日～19日)。 ・令和7年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に事務職員2名が参加した(令和7年10月30日～31日 富山大学)。 ・令和7年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員1名が参加した(令和7年11月12日 北陸先端科学技術大学院大学)。 ・令和7年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修に事務職員1名が参加した(令和7年11月 20日～21日 福井大学)。 ・国立高等専門学校機構令和7年度学務担当者向けオンデマンド研修に事務職員3名が参加した(5月15日～ 8月15日、9月1日～11月30日、12/15～3/15)。</p>

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

(2) 人員に関する指標  
 ・常勤教職員について、各種研修などを利用し、その職務能力を向上させると共に、全体として効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。  
 ・令和3年度から学内で勉強会や講習等を開催してRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を推進したが、今年度も継続して事務の効率化に努める。

(2) 人員に関する指標  
 ・高専・両技科大の教員交流制度について、令和7年度において利用を希望する者はいなかった。【再掲】  
 ・令和7年度は、各種研修会に積極的に教職員を参加させ知識修得及び資質向上を図った。【再掲】  
 <教育職員>  
 ・令和7年度高等専門学校新任教員研修会に教員3名が参加した(令和7年5月以降オンライン及び集合計式で実施)。【再掲】  
 ・令和7年度高等専門学校中堅教員研修に教員2名が参加した(令和7年10月28日～29日)。【再掲】  
 <事務職員・技術職員>  
 ・令和7年度国立高等専門学校機構初任職員研修に事務職員3名が参加した(令和7年4月16日～18日)。【再掲】  
 ・令和7年度独立行政法人国立高等専門学校機構東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(電気系)に技術職員1名が参加した(令和7年8月26日～28日 福島高専主管)。【再掲】  
 ・令和7年度東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校技術職員研修に技術職員1名が参加した(令和7年9月9日～11日 奈良高専)。【再掲】  
 ・東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(情報)に技術職員1名が参加した(令和7年8月28日～29日 名古屋大学)。【再掲】  
 ・令和7年度国立高等専門学校機構施設担当者研修会に技術職員1名が参加した(令和7年9月18日～19日)。【再掲】  
 ・令和7年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に事務職員2名が参加した(令和7年10月30日～31日 富山大学)。【再掲】  
 ・令和7年度北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修に事務職員1名が参加した(令和7年11月12日 北陸先端科学技術大学院大学)。【再掲】  
 ・令和7年度北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修に事務職員1名が参加した(令和7年11月 20日～21日 福井大学)。【再掲】  
 ・国立高等専門学校機構令和7年度学務担当者向けオンデマンド研修に事務職員3名が参加した(5月15日～ 8月15日、9月1日～11月30日、12/15～3/15)。【再掲】

7.3 情報セキュリティについて  
 ・本校のCSIRTに相当する組織編成について、引き続き検討を行う。  
 ・教育用システムの更改に向け、コスト面を考慮しつつ、情報セキュリティが確保されたシステムとなるよう、仕様策定を進める。

7.3 情報セキュリティについて  
 ・本校のCSIRTに相当する組織編成について、引き続き検討を行う。  
 ・教育用システムの更改について、本校の予算状況も勘案し、主に学生向けのPCの導入と、サーバ類の導入を分割した。特に基幹サーバはIaaSを利用した外部のサーバを一部利用し、コスト削減を図った。  
 ・学生向けPCの更新に多額に費用が掛かるため、次回の更新までに全校BYODについて教務とも連携して検討することとした。

②  
 ・令和7年度も昨年度に引き続き、情報担当者を対象とする研修を総合情報処理センタースタッフが研修を受講する。  
 合わせて予算化を実施する。

②  
 ・研修に伴う費用を予算化した。  
 ・12月に開催される高専機構主催の令和7年度IT人材育成研修に総合情報処理センタースタッフ2名を派遣した。

③  
 ・監査における助言に基づき創設した学内CSIRTを実質化させる。  
 ・また、卒業生のアカウント削除について、ルールに従った処理を実施する。

③  
 ・11月に実施された情報セキュリティ監査において、本校の危機管理体制について問題は指摘されなかった。創設した学内CSIRTは実質化している。  
 ・客員教授へのアカウント付与について、4月22日の情報セキュリティー推進委員会で審議し、ルールに従った処理を実施した。  
 ・卒業生のアカウント削除について、5月7日の総合情報処理センター運営委員会にて審議し、ルールに従った処理を実施した。

④  
 ・令和7年度も昨年度に引き続き、教職員が情報セキュリティに係る研修を受講する。

④  
 ・令和7年6月20日に開催されたデジタル庁主催の情報システム統一研修をセンター長が受講した。  
 ・令和7年8月5日に開催された情報セキュリティートップセミナーの動画をセンター長が聴講した。  
 ・機構主催のインシデント対応訓練を実施した。

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

<p>⑤ ・令和7年度も昨年度に引き続き、外部組織との連携を行い情報交換等に努める</p>	<p>⑤ ・令和7年12月に開催される情報センター長会議にセンター長が出席し、サイバーセキュリティ関連規程の統合作業について情報交換をおこなった。</p>
<p>⑥ ・令和7年度も昨年度に引き続き、高専CSIRTからもたらされる情報について総合情報処理センタで精査を行い、周知を行う。</p>	<p>⑥ ・6月24日のセンタースタッフミーティングでは、東海大学でのインシデントについて情報共有した。今後も高専CSIRTからもたらされる情報について確認して総合情報処理センタで精査を行い、必要に応じて周知を行う。</p>
<p>7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 ・校長のリーダーシップのもと、学校としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、必要に応じて機動的な会議開催を行う。</p>	<p>7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 ・令和7年度4月から3月までの間に40回の運営連絡会を実施し、学校としての意思決定の迅速化を図った。</p>
<p>①-2 ・学校運営会議その他の主要な会議や各種研修等を通じ、法人としての課題や方針の共有化を図ると共に、学校としての課題や方針の共有化を図る。</p>	<p>①-2 ・定期的に学校運営会議を開催(4月から3月までの間に16回)し、学校としての課題や方針の共有化を図った。また、教員会議を開催(4月から3月までの間に13回)し、全教員に対して意識共有の場を設け、有効に活用した。</p>
<p>①-3 ・本校の学校運営及び教育活動等の特徴を活かし、魅力の創出を図ると共に、各種会議を通じてその情報の共有化を図る。</p>	<p>①-3 ・令和7年度で最終年度(5年目)となる福井高専ジュニアドクター育成塾(クラフテックラボ)は、全校を上げての取組であり学校運営会議等、学内の各種会議を通じて情報共有化を図った。 ・令和7年7月から8月にかけて、常勤全教員を対象とした校長による面談を実施し教員の勤務実態等の把握や意見等の照会を実施した。また、校長が企画委員として本部委員会に参画し、校内及び第3ブロック校長会議において情報提供を行っている。</p>
<p>②-1 ・理事長ヒアリング等を通じ、法人全体の共通課題に対応する。</p>	<p>②-1 ・法人全体に係る共通課題について、学校運営会議等において議論し、学校としてのマネジメント対応に努めた。また、学校運営会議、教員会議の資料を電子データ(PDF)化し校内グループウェアに掲載し情報共有を実施している。</p>
<p>②-2 ・コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等により教職員のコンプライアンスの向上を図る。</p>	<p>②-2 ・コンプライアンス・マニュアルを常時共有ファイルで閲覧できるようにし、教職員個々人のコンプライアンスの向上に努めている。また、1月に実施したコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して教職員の意識向上を図った。</p>
<p>②-3 ・法人本部と学校との十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。</p>	<p>②-3 ・各事案に応じて、法人本部との速やかな情報共有を行いながら、対応にあたった。</p>
<p>③ ・内部監査等で発見した課題については情報を共有し、速やかに対応を行う。 ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況を維持する。</p>	<p>③ ・内部監査等で発見した課題については、関係者で情報を共有し、速やかに対応および検討を実施している。 ・令和8年1月～令和8年2月に、総務課職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努め、内部監査等で発見した課題については、関係者で情報を共有し、解決を図った。 ・令和7年度高専相互会計内部監査について、令和7年12月18日に久留米工業高等専門学校の監査を行い、あわせて両校との情報共有を行い、会計事務関係等の情報交換を行った。</p>

令和7年度 年度計画  
(高専名:福井工業高等専門学校)

令和7年度 年度計画実績報告  
(高専名:福井工業高等専門学校)

④  
・教職員のコンプライアンス意識涵養のために講習会や注意喚起を行う。  
・平成27年1月26日理事長裁定「独立行政法人国立高等専門学校機構における公的研究費等の不正使用防止に関する基本方針」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(令和3年2月1日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。

④  
・令和7年4月上旬の新任教職員オリエンテーション開催時に、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。  
・教員会議(令和7年4月23日)において、公的資金の適正な管理及び執行について、総務課長から周知を行った。  
・全教職員を対象としたコンプライアンス講習会として、機構本部から配信されている「公的研究費の不正使用の再発防止」に向けた内容の録画視聴を行い(期間:令和7年9月3日~9月26日)、併せて「理解度チェックのためのアンケート」を実施した。

⑤  
・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて本校の年度計画を定め、自己点検を行う。

⑤  
・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて本校の中期計画及び年度計画を定めており、自己点検・評価を行う予定である。